

<平成27年3月期決算参考資料>(連結)

	前期実績 平成26年3月期	当期実績 平成27年3月期 平成27年2月予想	次期予想 平成28年3月期
売上高	20,934 億円	21,807 億円 (21,700)	22,800 億円
営業利益	1,234 億円	1,359 億円 (1,350)	1,250 億円
<利益率>	< 5.9% >	< 6.2% >	< 5.5% >
		(増益要因) 資材費等コスト低減 +292億円 為替 +123億円 (減益要因) 販売費用 ▲75億円 台数・車種構成等 ▲65億円 その他 ▲150億円 対前年 変動計 125億円	(増益要因) 台数・車種構成等 +290億円 資材費等コスト低減 +200億円 (減益要因) 為替 ▲410億円 販売費用 ▲40億円 その他 ▲149億円 対前年 変動計 ▲109億円
経常利益	1,295 億円	1,516 億円 (1,380)	1,300 億円
<利益率>	< 6.2% >	< 7.0% >	< 5.7% >
当期純利益 ※	1,047 億円	1,182 億円 (1,100)	1,000 億円
<利益率>	< 5.0% >	< 5.4% >	< 4.4% >
為替 (売上レート)	100 円/US\$ 134 円/1-円	109 円/US\$ 139 円/1-円	117 円/US\$ 127 円/1-円
設備投資 (計上ベース)	722 億円	680 億円	1,050 億円
減価償却費	527 億円	533 億円	600 億円
研究開発費	675 億円	746 億円	820 億円
有利子負債残高	2,224 億円	1,445 億円	
総資産	15,439 億円	15,828 億円	
売上台数	1,258 千台	1,296 千台	1,300 千台
国内	313 千台	286 千台	244 千台
海外	945 千台	1,010 千台	1,056 千台
生産台数 (自工会ベース)	1,269 千台	1,275 千台	
業績評価		増収・増益	

※平成28年3月期は「親会社株主に帰属する当期純利益」に読み替え

三菱自動車、2014年度決算及び2015年度業績見通しを発表

三菱自動車は本日、2014年度(2015年3月期)決算及び2015年度(2016年3月期)の業績見通しを発表しました。

1. 2014年度決算

(1) 業績概況

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の売上高は、前年度比873億円(4%)増の2兆1,807億円となりました。

営業利益は、販売費や研究開発費の増加や、台数・車種構成等のマイナスがありましたが、コスト低減努力、為替の好転により、前年度比125億円(10%)増の1,359億円となりました。

経常利益は、前年度比221億円(17%)増の1,516億円、また当期純利益については、前年度比135億円(13%)増の1,182億円となり、営業利益、経常利益、当期純利益のすべての利益項目で過去最高益となりました。

(2) 販売台数

2014年度の販売台数は、前年度比43千台(4%)増の1,090千台となりました。

日本では、登録車、軽自動車ともに前年度を下回り、前年度比28千台(20%)減の115千台となりました。

北米では、米国の景気回復基調が強まる中、『アウトランダースポーツ』や『ミラージュ』の販売が好調に推移したことにより、前年度比20千台(21%)増の117千台となりました。

欧州では、経済情勢が大幅に悪化したロシアの販売が前年割れとなりましたが、西欧で『アウトランダーPHEV』が好調に推移したことから、前年度比25千台(13%)増の227千台となりました。

アジアでは、タイが総需要の回復の遅れにより低迷しましたが、北アジアにおいて中国が广汽三菱汽車を中心に好調に推移したことから、前年並みの344千台となりました。

その他地域については、中東地域での販売が好調に推移し、地域全体で前年度比26千台(10%)増の287千台となりました。

2. 2015年度業績見通し

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の業績見通しは、以下のとおりです。

(1) 業績見通し

- 売上高: 2兆2,800億円、前年度比993億円(5%)増
- 営業利益: 1,250億円、前年度比109億円(8%)減
- 経常利益: 1,300億円、前年度比216億円(14%)減
- 当期純利益^(*): 1,000億円、前年度比182億円(15%)減

(*) 2015年度は「親会社株主に帰属する当期純利益」に読み替え

(2) 販売台数計画

1,100 千台、前年度比 10 千台(1%)増

(地域別内訳)

- 日本：107 千台、前年度比 8 千台(7%)減
- 北米：128 千台、前年度比 11 千台(9%)増
- 欧州：191 千台、前年度比 36 千台(16%)減
- アジア：378 千台、前年度比 34 千台(10%)増
- その他地域：296 千台、前年度比 9 千台(3%)増

以 上

【お問い合わせ先】

広報部 メディアリレーショングループ担当：山西、稲田、^{あまやま}榎山
代表 03-6852-4274・4276

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご注意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。



MITSUBISHI MOTORS

2014年度 決算説明会

三菱自動車工業株式会社

2015年4月24日

2014年度 実績



『アウトランダー』(2016年モデル)

2014年度 業績サマリー 【前年度対比、前回予想対比】

営業利益・経常利益・当期利益 全てにおいて過去最高

(単位: 億円)

	FY13 ('13/4-'14/3)	FY14 ('14/4-'15/3)	増減		2/3 公表値	増減	
	実績	実績	差異	率		差異	率
売上高	20,934	21,807	+873	+4%	21,700	+107	+1%
営業利益 (利益率)	1,234 (5.9%)	1,359 (6.2%)	+125	+10%	1,350 (6.2%)	+9	+1%
経常利益 (利益率)	1,295 (6.2%)	1,516 (7.0%)	+221	+17%	1,380 (6.4%)	+136	+10%
当期利益 (利益率)	1,047 (5.0%)	1,182 (5.4%)	+135	+13%	1,100 (5.1%)	+82	+7%

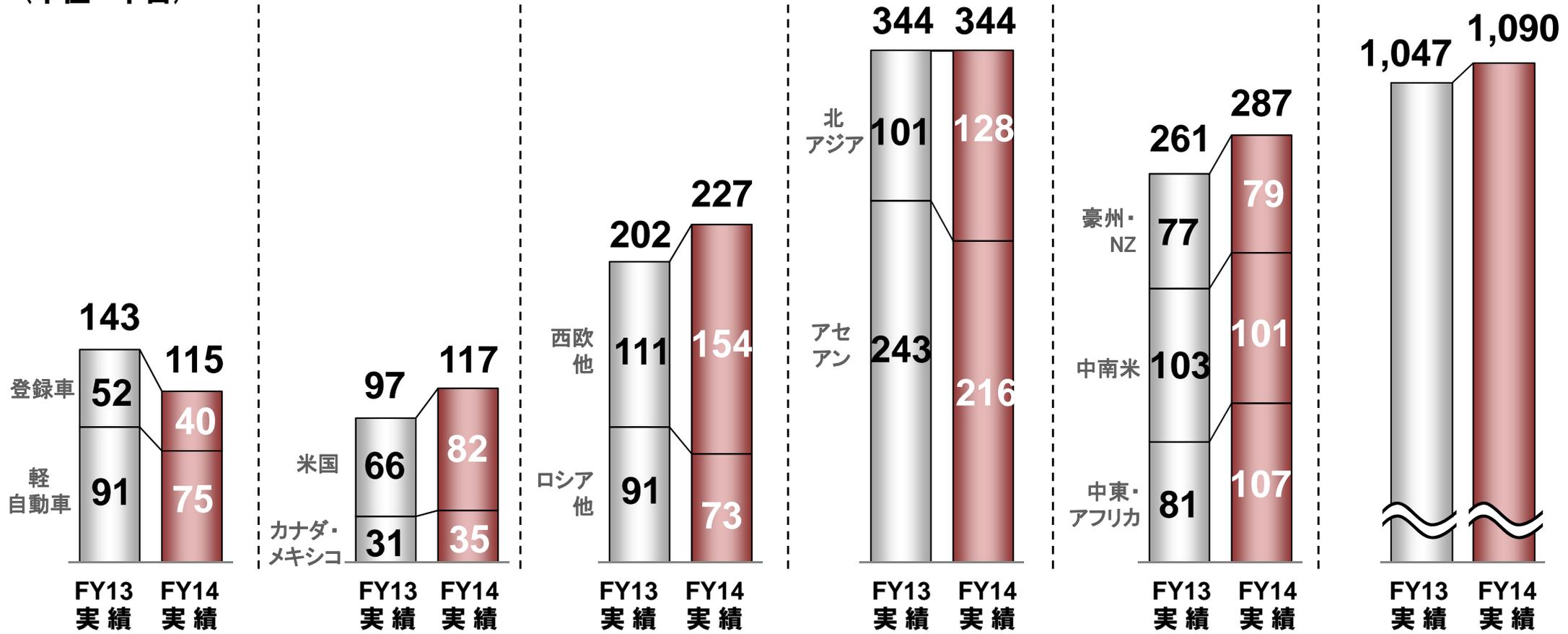
2014年度 小売台数実績【前年度対比】

西欧、北アジア、米国で伸長し、前年度を43千台上回る

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
----	----	----	-----	-----	----

《前年度実績対比増減》					
- 28 (- 20%)	+ 20 (+ 21%)	+ 25 (+ 13%)	± 0 (± 0%)	+ 26 (+ 10%)	+ 43 (+ 4%)

(単位: 千台)



※注) 14年度小売台数実績は速報値。

営業利益増減分析【前年度対比】

コスト低減努力、為替の好転により増益

(単位：億円)

台数・車種構成等 地域別内訳	
日本	- 38
北米	+ 14
欧州	- 10
アジア	- 51
その他	+ 20

主要通貨別内訳			
	売上レート(円)		影響額 (億円)
	FY13	FY14	
米ドル	100	109	+ 182
ユーロ	134	139	+ 53
豪ドル	93	96	+ 31
タイバーツ	3.19	3.38	- 154
英ポンド	159	176	+ 66
ロシアルーブル	3.01	2.71	- 60

その他の主な内訳	
研究開発費	- 71
間接員労務費 他	- 79



2015年度 見通し



新型『トライトン』

2015年度 小売台数見通し【前年度対比】

アジアを中心に販売台数増加の計画

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
----	----	----	-----	-----	----

《前年度実績対比増減》

- 8
(- 7%)

+ 11
(+ 9%)

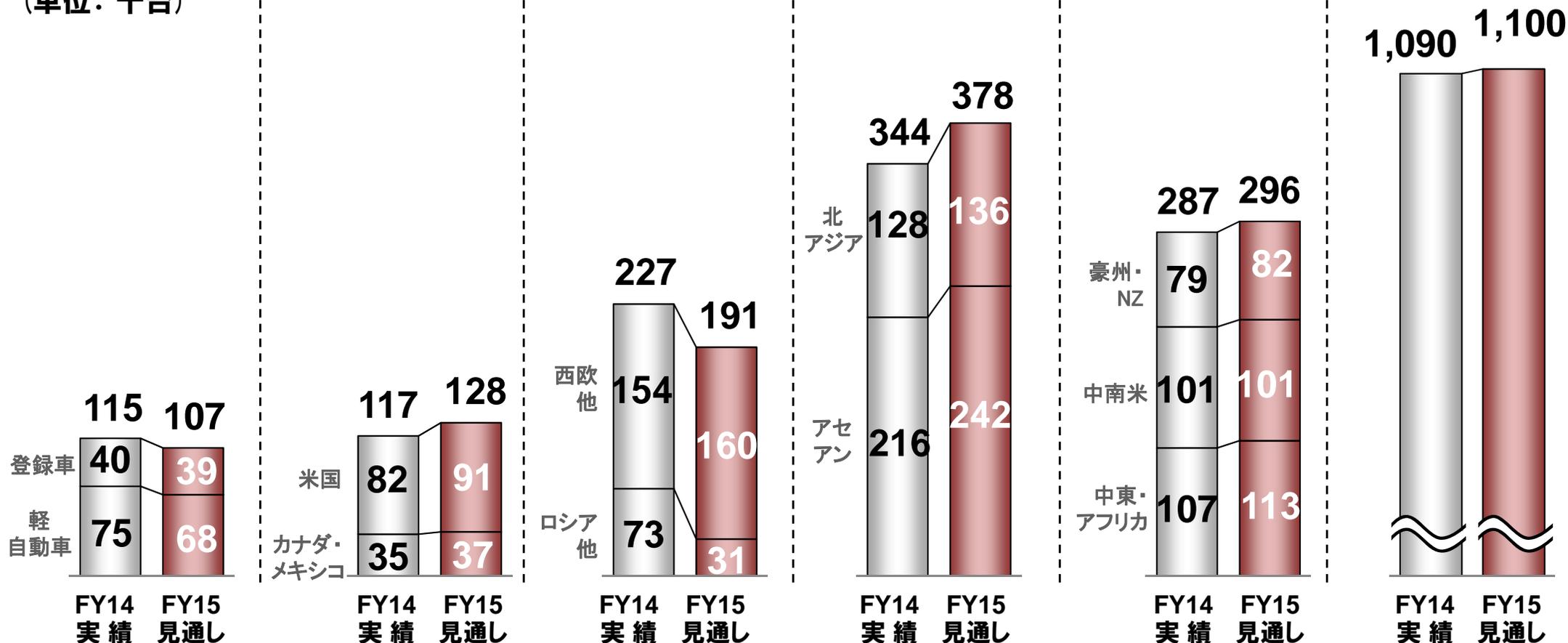
- 36
(- 16%)

+ 34
(+ 10%)

+ 9
(+ 3%)

+ 10
(+ 1%)

(単位: 千台)



※注) 14年度小売台数実績は速報値。

増収・減益の計画

(単位：億円)

	FY14 ('14/4-'15/3)	FY15 ('15/4-'16/3)	増減	
	実績	見通し	差異	率
売上高	21,807	22,800	+993	+5%
営業利益 (利益率)	1,359 (6.2%)	1,250 (5.5%)	-109	-8%
経常利益 (利益率)	1,516 (7.0%)	1,300 (5.7%)	-216	-14%
当期利益※ (利益率)	1,182 (5.4%)	1,000 (4.4%)	-182	-15%

※FY15は「親会社株主に帰属する当期純利益」に読み替え

2015年度 営業利益見通し増減分析【前年度対比】

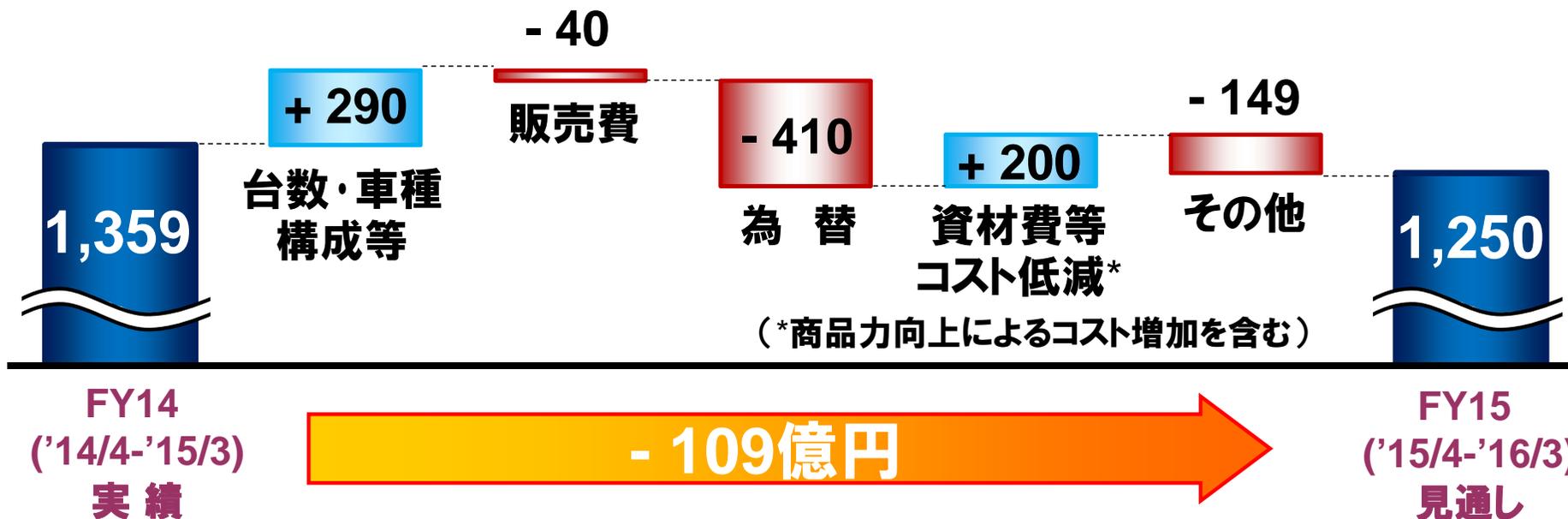
為替影響および研究開発投資等により減益

(単位：億円)

台数・車種構成等 地域別内訳	
日本	- 30
北米	+ 60
欧州	+ 220
アジア	- 20
その他	+ 60

主要通貨別内訳			
	売上レート(円)		影響額 (億円)
	FY14	FY15	
米ドル	109	117	+ 150
ユーロ	139	127	- 140
豪ドル	96	90	- 75
タイバーツ	3.38	3.74	- 165
英ポンド	176	174	- 5
ロシアルーブル	2.71	2.10	- 100

その他の主な内訳	
研究開発費	- 74
間接員労務費 他	- 75



1株当たり配当金

	FY14 ('14/4~'15/3)	FY15 ('15/4~'16/3) (予想)
第2四半期末	7.5円	8.0円
期末	8.5円	8.0円
合計	16.0円*	16.0円

※直近の配当予想:15.0円

中期経営計画「ニューステージ2016」のアップデート



MITSUBISHI Concept XR-PHEV II

中期経営計画「ニューステージ2016」の基本方針は変更なし

■『ニューステージ2016』の基本方針

「新たな成長ステージへ」

1. 戦略商品投入による売上高の増大
2. 次世代技術開発の推進
3. 新興市場を基盤とした成長戦略と成熟市場の収益性改善
4. 事業構造の改革
5. 安定した経営基盤の確保のための成長投資
6. 品質改革への取り組み



■ 西欧

- ◆ 環境意識が高く、政府の補助金等の制度も充実しており、『アウトランダーPHEV』の販売は前年度の約2.5倍に拡大
- ◆ 特に英国では、商品性が高く評価され、『アウトランダーPHEV』の14年度の販売台数は1万台達成



アウトランダーPHEV

■ 中国

- ◆ 広汽三菱(GMMC)を中心に販売拡大
- ◆ 14年度は10万台を超え、過去最高の販売台数を記録



広汽三菱

■ 豪州

- ◆ 高採算車種のSUV系車種の販売が拡大

■ アセアン

事業基盤の強化を更に進める

新型『トライトン』の発売

- ◆ 2014年11月にタイで発売。その後、アセアン各国に輸出を開始

フィリピン工場移転

- ◆ 2015年1月に工場移転・生産開始
- ◆ 年間5万台の生産体制。将来的には年間10万台を目指す

インドネシアの新工場建設

- ◆ 2017年4月に操業を開始予定（生産能力：年間16万台）
- ◆ 従来の生産車種『COLT L300』等に加え、新たに開発する小型MPVと、新型SUV『パジェロスポーツ』の乗用車を生産する計画
- ◆ 生産した車両の一部はアセアン各国にも輸出する計画



フィリピン新工場

Win-Winの関係になる業務提携の取り込み

- ◆ タイ製の『アトラージュ』をベースにしたコンパクトセダンをクライスラー・メキシコ向けに2014年11月より5年間供給
- ◆ タイ製の新型『トライトン』をベースにしたピックアップトラックをフィアットグループオートモービルズ向けに2016年より6年間供給



『アトラージュ』



新型『トライトン』

達成目標

「クォリティー・ターゲット」

2014年以降投入する新型車において、以下を目標として取り組む

1. 納車後3ヶ月間に発生する不具合の件数を、2012年度実績に対し、半減させる
2. サプライヤーからの納入部品不良率を、2012年度実績に対し、半減させる
3. 市場で不具合が発生してから対策決定までの期間を、2012年度実績に対し、半減させる

- ◆ クォリティー・ターゲットの3項目全てにおいて大幅な改善が見られた
- ◆ 自動車に関わる全ての品質において、業界トップレベルを目指し、品質改革への取り組みに引き続き注力していく

課題：タイ

◆ 市場の回復が遅れており、消費者は様子見の様相

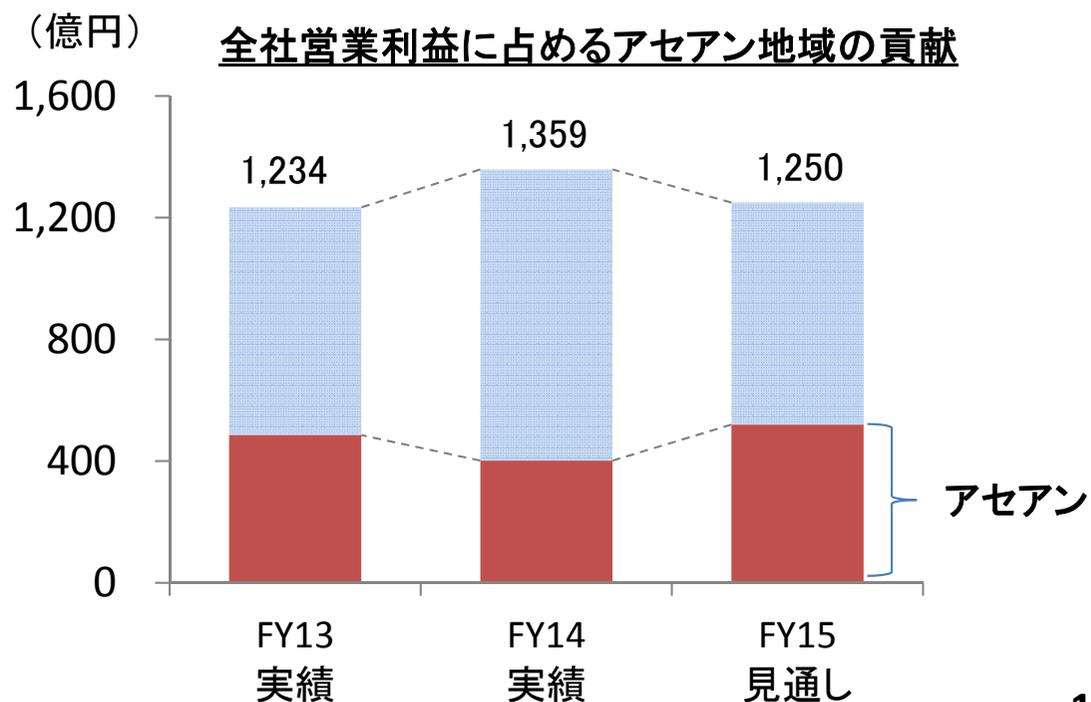
◆ ディーラーと一体になった販売力強化や商品力強化を行う

◆ 15年以内に投入する新型『パジェロスポーツ』の入念な立ち上げ準備を行い、販売台数を確実に伸ばしていく

◆ タイを中心にアセアンの営業利益は今後も当社の利益の柱



新型『トライトン』



課題：ロシア

- ◆ ルーブル安や原油価格下落などによる経済の下押し圧力が継続
- ◆ 商品力を強化する『アウトランダー』を軸に利益を重視した販売を行う

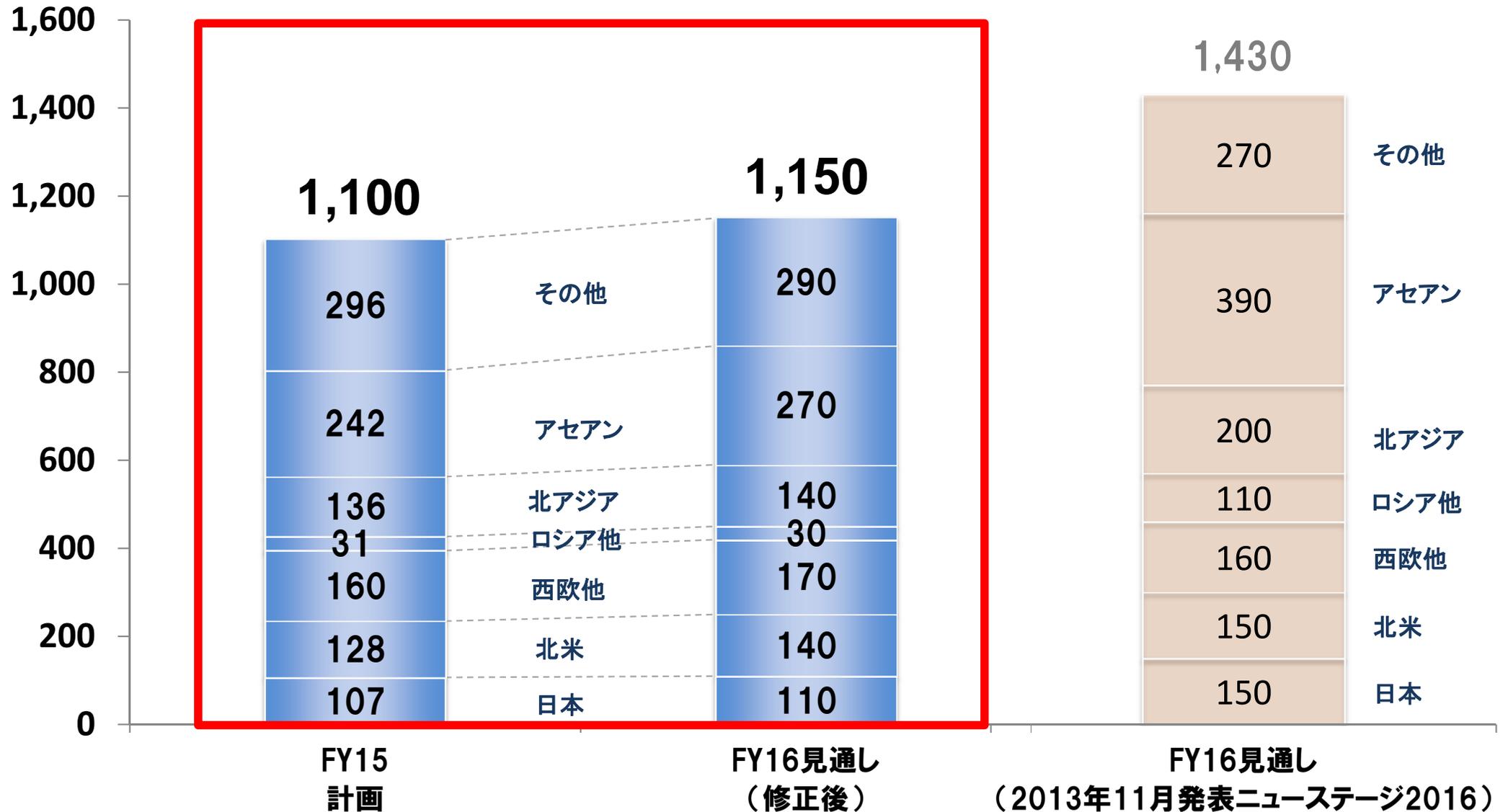
課題：日本

- ◆ 少子高齢化や人口減少による構造的問題に加え、自動車税制の変更などから前年割れが続く見通し。
- ◆ 電動車両やクリーンディーゼル車など環境対応車の販売に重点を置く
- ◆ デザインで当社らしさをアピールする

2016年度の数値目標 アップデート

16年度台数は15年度計画に対し+50千台増加の見通し

小売台数 (千台)



2016年度の数値目標 アップデート

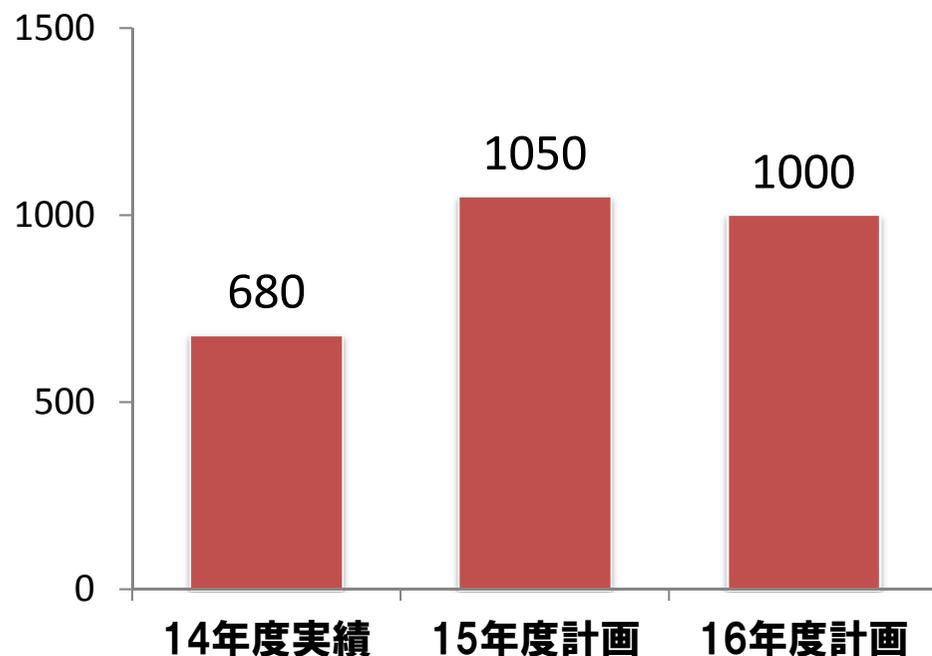
2016年度は営業利益1,400億円、利益率6.0%を目指す

(億円)

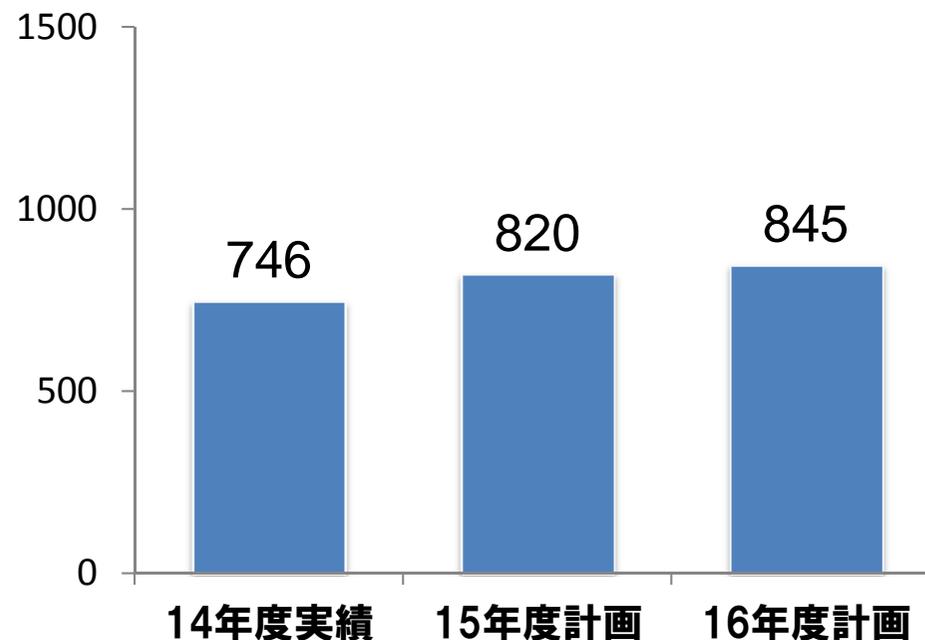
	FY15 ('15/4~'16/3) 計画	FY16見通し ('16/4~'17/3) 修正後	FY16見通し ('16/4~'17/3) 2013年11月発表 ニューステージ2016
売上高	22,800	23,500	26,000
営業利益	1,250	1,400	1,350
営業利益率	5.5%	6.0%	5.2%
為替前提	米ドル:117円 ユーロ:127円 豪ドル:90円 タイバーツ:3.74円	米ドル:117円 ユーロ:127円 豪ドル:90円 タイバーツ:3.74円	米ドル:95円 ユーロ:125円 豪ドル:85円 タイバーツ:3.20円

当初計画どおり、新興市場・商品力強化・環境対応への
重点投資を継続的に行う

設備投資（億円）



研究開発費（億円）



◆ 上記以外にインドネシア新工場
関連投資として15年度、16年度
の合計で約300億円を計画

■ 株主還元の考え方

- ◆ **まずは、積極的な成長戦略投資、および更なる自己資本比率の向上（50%を目処）を通じ、企業価値の向上と経営基盤の強化を図る**
- ◆ **成長戦略の実行および財務基盤強化とのバランスをとりつつ、安定的・継続的な配当を実施する**

2014年度実績：営業利益・経常利益・当期利益全ての利益項目で過去最高

- 販売台数(小売) : 前年比 4%増加の1,090千台
- 販売台数(卸売) : 前年比 3%増加の1,296千台
- 売上高 : 前年比 4%増収の 21,807億円
- 営業利益 : 前年比 10%増益の 1,359億円
- 経常利益 : 前年比 17%増益の 1,516億円
- 当期利益 : 前年比 13%増益の 1,182億円

2015年度見通し：為替影響および研究開発投資等により減益

- 販売台数(小売) : 前年比 1%増加の1,100千台
- 販売台数(卸売) : 前年度並みの 1,300千台
- 売上高 : 前年比 5%増収の 22,800億円
- 営業利益 : 前年比 8%減益の 1,250億円
- 経常利益 : 前年比 14%減益の 1,300億円
- 親会社株主に帰属する当期純利益 : 前年比 15%減益の 1,000億円

2016年度見通し：営業利益1,400億円、利益率6.0%を目指す

- 販売台数(小売) : 1,150千台
- 販売台数(卸売) : 1,350千台
- 売上高 : 23,500億円
- 営業利益 : 1,400億円

Appendix



新型『トライトン』

2014年度 業績サマリー 【四半期推移】



(単位: 億円、千台)

	FY14 1Q (‘14/4-6)	FY14 2Q (‘14/7-9)	FY14 3Q (‘14/10-12)	FY14 4Q (‘15/1-3)	FY14 通期 (‘14/4-‘15/3)
売上高	5,138	5,213	5,535	5,921	21,807
営業利益	310	317	381	351	1,359
経常利益	326	410	465	315	1,516
当期利益	282	327	377	196	1,182
販売台数(小売)	258	263	285	284	1,090
販売台数(卸売)	315	311	330	340	1,296

売上レート(円)

米ドル	102	103	112	119	109
ユーロ	140	138	141	137	139
豪ドル	95	96	97	94	96
タイバーツ	3.15	3.24	3.50	3.65	3.38

2014年度 地域別業績【前年度対比】

(単位: 億円)

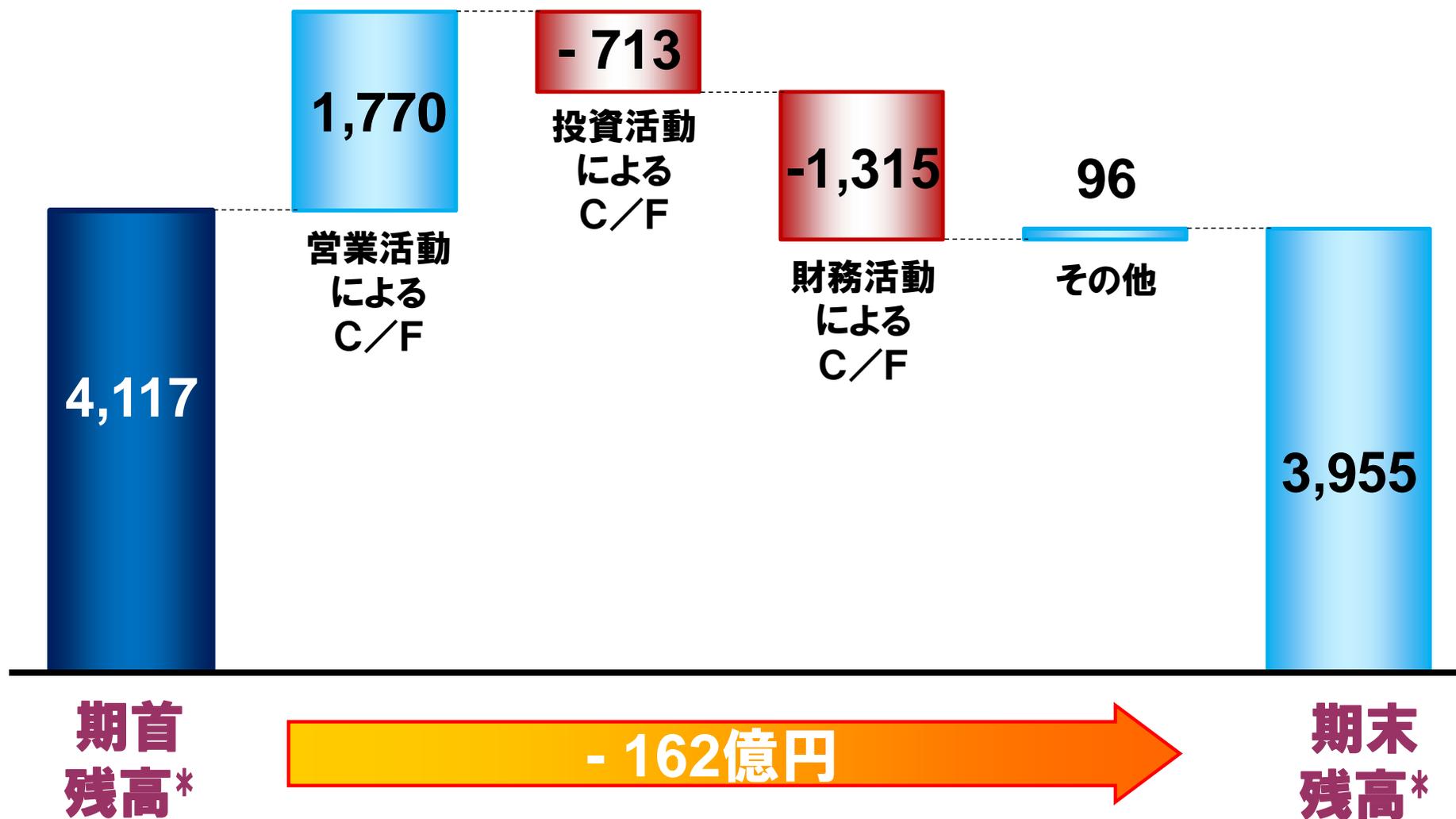
	FY13 実績	FY14 実績	増減	【参考】 FY14計画 2/3公表値
売上高	20,934	21,807	+873	21,700
- 日本	4,741	4,453	- 288	4,400
- 北米	2,294	2,758	+464	2,700
- 欧州	4,843	5,144	+301	5,100
- アジア	4,157	4,245	+88	4,300
- その他	4,899	5,207	+308	5,200
営業利益	1,234	1,359	+125	1,350
- 日本	9	20	+11	10
- 北米	- 38	5	+43	30
- 欧州	372	391	+19	370
- アジア	598	566	- 32	530
- その他	293	377	+84	410

2015年度 地域別業績見通し【前年度対比】

(単位: 億円)

	FY14 実績	FY15 見通し	増減
売上高	21,807	22,800	+993
- 日本	4,453	4,400	- 53
- 北米	2,758	3,200	+442
- 欧州	5,144	4,600	-544
- アジア	4,245	5,100	+855
- その他	5,207	5,500	+293
営業利益	1,359	1,250	- 109
- 日本	20	0	- 20
- 北米	5	70	+65
- 欧州	391	170	- 221
- アジア	566	650	+84
- その他	377	360	- 17

(単位: 億円)



*現金及び現金同等物(3ヶ月超えの定期預金を除く)

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	FY13 ('13/4-'14/3) 実績	FY14 ('14/4-'15/3) 実績	FY15 ('15/4-'16/3) 見通し
設備投資 (前年比)	722 (+40%)	680 (- 6%)	1,050 (+54%)
減価償却費 (前年比)	527 (+5%)	533 (+1%)	600 (+13%)
研究開発費 (前年比)	675 (+13%)	746 (+11%)	820 (+10%)

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご留意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。

Drive@earth



MITSUBISHI MOTORS